



こくろうよなご

第18号

2025年5月25日

発行責任者 倉下文明

編集 教宣部

つくろう職場に労働運動を！ ひろげよう闘いを 職場に、地域に、全国に！

2割弱がパワハラを経験！

労働組合への相談は1割程度

2020年6月施行の「改正労働施策総合推進法」にて、2020年は大企業に、22年度からは全ての企業を対象に「パワーハラスメント」の防止措置が義務付けられ、セクシャルハラスメント等に関するハラスメント防止対策も強化をされています。

ハラスメント実態調査

厚生労働省が2024年5月に公表した「職場のハラスメントに関する実態調査」によれば、過去3年間で1度以上「経験した」と答えた労働者の割合は、パワハラが19.3%、セクハラが6.3%、顧客等からの著しい迷惑行為（カスハラ）が10.8%となっています。セクハラは女性（8.9%）の方が男性（3.9%）よりも経験している割合が多く、パワハラやカスでは男女間での大きな違いはないようです。パワハラ行為の具体的な内容については「脅迫・名誉棄損・侮辱・ひどい暴言（精神的な攻撃）」（48.5%）が最も割合が高く、次いで「業務上明らかに不要なこと、遂行不可能な事の強要、仕事の妨害（過大な要

「社内の上司に相談した」（38.2%）と「何もしなかった」（35.2%）が拮抗しています。一方、どのハラスメントの場合でも、労働組合に相談した割合は、わずか1%程度にしか過ぎません。働く者の見方とされているのか、頼りにされているのか、自問自答しながら、さらに取り組みを強化します。

まさに負のスパイラル

去る5月7日、柿田太田市議会議員の紹介により大田市役所を訪問、公共交通を取り巻く現状や課題などについて意見交換を行いました。

雨・風も凄げない！

まずは、市内移動の中心となるバスについて、いくつかの路線の廃止に手を付けざるを得ない現状にある中で、利便性の向上を図る為、イコカによるバス運賃を支払える環境整備を進めているという事でした。一方、島根県西部のJRでは依然として使用出来ず、カード

選挙対策委員会の設置を確認！

去る5月6日、島根県支部事務所において国労議員団会議を開催してきました。

会議に先立ち倉下委員長より「この間、ローカル線の存続問題が大きくクローズアップをされる中、自治体議員の皆さんのお世話になりながら、自治体訪問を継続して取り組んできた。引き続き、自治体議員の皆さんと連携し、ローカル線の維持・活性化を図っていききたい。」

本年10月の浜田市議会選挙では、組織内議員の『小川稔宏』氏が改選を迎える。情勢的には非常に厳しい選挙になることは間違いない。全力で選挙戦を闘い、何としても小川氏の当選を勝ち取る」との挨拶を受け、浜田市議会選挙を取り巻く情勢や当面する7月の参議院議員選挙における「もりやたかし」候補の当選に向けた取り組み状況などについて意見交換をしてきました。

最後に、6月1日には、「浜田市議会議員選挙対策委員会」の設置を確認、地本・支部・分会が連携して取り組むことを意思統一し、議員団会議を終えてきました。

企業努力は何処に？！

また、大田市と言えども、世界遺産で有名な石見银山遺跡の街でもあります。インバウンドのお客様はじめ大きな荷物をお持ちの方が、跨線橋を渡るのが大変な事は容易に想像が付きますし、改札を出ても荷物を預けるロッカーもなく、関連会社の撤退でなくなっているそうなんです。これではなかなかリピーターになってもうえそうもありません。JRへの要望についても「なかなかいい返



事は帰ってこない」との事でした。また、ご存じのように出雲市以西は列車本数もガクリと減ります。「利用が減るから、列車や設備も縮小、また、利用も減少・・・」。まさに「負のスパイラル」に陥っているわけですが、自治体側からの「もう少しの企業努力をお願いしたい」との言葉をJRはどう受け止めるのか、問われています。

